

13th Nagasaki Youth Delegation attending the 2025 NPT PrepCom in NYC

ナガサキ・ユース代表団13期生がNPT再検討会議準備委員会での様子を投稿していきます！

recent posts

[NPT準備委参加 5日目、5月2日](#)

[NPT準備委参加4日目、5月1日](#)

[NPT準備委参加 3日目、4月30日](#)

[NPT準備委参加 2日目、4月29日](#)

[NPT準備委参加1日目、4月28日](#)

[about](#)



NPT準備委参加1日目、4月28日

April 30, 2025

こんにちは。ナガサキ・ユース代表団第13期生のリーダーを務めている今村陽と申します。私たちナガサキ・ユース代表団第13期生は、アメリカ合衆国・ニューヨークで開催される「2026年核兵器不拡散条約（NPT）運用検討会議第3回準備委員会」に4月28日から5月2日まで参加いたします。そして、13期生メンバー6人でNPT運用検討会議第3回準備委員会参加の様子をこちらのブログにて発信させていただきます。

初日は、朝9時に集合し、国連パスの取得に向かいました。顔写真入りの国連パスを受け取り、一同、喜びの顔を浮かべておりました。その後、厳重なセキュリティチェックを受け、緊張した面持ちで国連本部の中へと向かいました。国連ビルの入り口で「発射不能の銃」のオブジェの前で記念写真を撮影しました。建物の中に入ると、ネルソン・マンデラの像や様々な絵画などが並んでおり、各々写真を撮っていました。その後、会議が行われる議場を下見し、議場の横にあるイーストラウンジに向かいました。大きな窓からはハドソン川が一望でき、一同、ニューヨークの景色の美しさに感動しておりました。



国連本部ビル



「発射不能の銃」の前で記念撮影



イーストラウンジ

午前10時15分頃になると、会議が開幕しました。開始時間が定刻を過ぎるのは、「国連タイム」といい、国連の会議ではよくあることだそうです。しかし、会議の終わる時刻は、定刻通りだそうです。



会議を傍聴

ガーナ出身のアジェマン議長と中満泉国連事務次長が最初にお話しされました。国連軍縮担当上級代表でもある中満泉国連事務次長は、5つの優先事項をお示しになりました。既存の義務の履行強化、安全保障に寄与する現実的な目標として核軍縮への再コミットメント、透明性の向上と核兵器使用の防止、IAEAの支援による地域的課題にも対応した包括的な不拡散体制の維持、核技術の平和的利用の促進の5つです。



中満泉事務次長のスピーチ



アジェマン議長のスピーチ

アジェマン議長は第3回準備委員会が2026年NPT運用検討会議に向けた重要な会議であることを強調しました。現在の国際情勢は厳しいが、NPTは依然として核不拡散、核軍縮、原子力の平和利用の基礎であると述べました。議長は、対話と協力を通じて、困難な課題を乗り越え、2026年の運用検討会議でコンセンサス文書を採用するための基盤を築くことの重要性を訴えました。過去の合意実施を重視し、全締約国の参加を得て透明性高く議論を進める姿勢を示しました。

その後、一般討論演説が開始され、最初に日本がステートメントを発表しました。登壇した岩屋毅外務大臣が、日本政府を代表してその内容を読み上げました。



日本のステートメントでは、国際社会が直面している厳しい安全保障環境や、NPT体制が抱える課題に深い懸念が示されました。こうした不安定な時代だからこそ、「対話と協力」の重要性が改めて強調されました。また、唯一の戦争被爆国として、被爆者の証言を次の世代へと継承していく責任や、平和教育の推進、若者の積極的な参画の必要性にも言及がありました。さらに、「核軍縮」「不拡散」「原子力の平和利用」というNPTの三本柱すべてにおいて進展を図るという日本の姿勢が示され、核兵器国に対しては、透明性の向上を含む具体的

な措置の実施を強く求めていました。これらの発言は、「核兵器のない世界」に向けた日本の確固たるコミットメントを改めて示すものでした。

午後1時15分から2時45分には、モンゴル政府主催の「北東アジアにおける地域的平和と安全保障を強化する」というテーマのサイドイベントに、富永さん、香月さんの2名が参加しました。パネリストとして登壇されたのは、駐米国モンゴル特命全権大使の Batbayar Ulziidelger氏、広島県知事の湯崎英彦氏、軍備管理協会のリサーチ・アシスタントである倉光静都香さんでした。



富永：「今こそ北東アジアのすべての隣国が対話と信頼醸成に努めるべき時であり、真の協力によってこそ、持続的な安全保障と共通の繁栄が実現できると強く思いました。さらに、実際の議論を通して対話の大切さを肌を通して感じました。長崎の若者たちは、歴史の重みと未来への責任を胸に、これからも活動していきたいです。」

香月：「このイベントを通して北東アジアの核兵器問題に関する状況や、安全保障と持続可能な取り組みの繋がりについて理解を深めることができました。また広島、長崎の核なき世界に向けた活動を私も長崎の学生として、より多くの人へ伝えていかなければならないと改めて感じました。」

午後も引き続き、各国代表によるステートメントに耳を傾けました。私たちは翻訳機を活用しながら、それぞれの国が抱える課題や核軍縮に対する立場に向き合い、発言一つひとつに集中して聞き入っていました。

夜には、国際連合日本政府代表部にて、外務省主催の “Youth Exchange Reception” に参加させていただきました。冒頭では、山崎和之特命全権大使よりご挨拶があり、続いて、国連の中満泉事務次長より、私たち若者への期待を込めた、力強く温かなメッセージをいただきました。

その後、私・今村が長崎のユースを代表してスピーチをさせていただきました。国際的な場で自らの思いを発言するのは初めての経験であり、緊張もありましたが、それ以上に、これまでの活動の歩みと平和への強い願いを、自分の言葉でしっかりと届けたいという決意を持って臨みました。

続いて、市川とみ子・軍縮会議日本政府代表部大使のご発声で乾杯が行われ、レセプションが開幕。会場では、国際社会の最前線で活躍される大使の方々や外務省の皆さま、被団協の被爆者の方々、そして広島の高校生の皆さんと交流させていただきました。



それぞれが異なる立場で「核なき世界」の実現に力を尽くされている姿に触れ、私自身も改めて、長崎の若者としての責任と核廃絶への思いを改めて強く抱きました。

また、平和の実現に向けて行動する方々との出会いを通して、多くの学びや気づきを得ることができました。さらに、同じ志を持つ方々と情熱を分かち合えたことで、未来への希望と確かな連帯感を感じる貴重な時間となりました。

国連という場に足を踏み入れた初日。国際社会が直面している現実と、そこに関わる多くの人々の思いや姿勢に直接触れる中で、深い学びと新たな気づきに満ちた一日となりました。また、平和な世界に向け、自らの立場から行動を起こす方々と出会い、対話を重ねることで、私たち自身の志もさらに確かなものとなり、この活動への思いをいっそう強くしました。残り4日間も、ここで得た刺激や学びを糧にしながら、一日一日を大切に、悔いのないよう全力で取り組んでまいります。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

また明日のレポートも、ぜひお楽しみに！

ナガサキ・ユース代表団第13期生

代表 今村陽

13th Nagasaki Youth Delegation attending the 2025 NPT PrepCom in NYC

ナガサキ・ユース代表团13期生がNPT再検討会議準備委員会での様子を投稿していきます！

recent posts

[NPT準備委参加 5日目、5月2日](#)

[NPT準備委参加4日目、5月1日](#)

[NPT準備委参加 3日目、4月30日](#)

[NPT準備委参加 2日目、4月29日](#)

[NPT準備委参加1日目、4月28日](#)

[about](#)



NPT準備委参加 2日目、4月29日

May 3, 2025

はじめまして。長崎ユース代表团第13期生の川越佳梨です。今回は、NPT第3回準備委員会2日目の様子をお届けします。

この日は、一般討論演説の傍聴に始まり、平和首長会議ユースフォーラムでのプレゼン、広島県・長崎県主催のサイドイベント、さらにドイツ・スイス両国の大使との面会と、分刻みのスケジュールでした。

◆ 一般討論演説の傍聴

朝9時半、国連に集合し、10時開始予定の一般討論演説に臨みました。とはいえ、ここでも“国連タイム”（＝開始が予定時刻を過ぎること）により、実際には10分遅れてスタート。私たちはその後に控える平和首長会議の準備もあり、わずか10分ほどの傍聴となりましたが、その短い時間でも、世界の核問題への緊張感を肌で感じることができました。

◆ 平和首長会議ユースフォーラムにてプレゼン

10時半からは「平和首長会議ユースフォーラム」がスタート。ここでは、次世代を担う私たち若者が、それぞれの平和活動を通して感じた思いや考えを発表し合い、意見交換を行います。

広島から参加した4校の高校生ユースチーム、私たち長崎ユース代表団、そしてICANやACAをはじめとした各国の団体、計11組がプレゼンを行いました。

特に印象的だったのは、広島の高校生による発表。被爆者の証言を丁寧に取り上げながら、自分たちの言葉で「核なき未来」への思いを伝える姿に、私たち一同、心を動かされました。想いの伝え方や核に対するアプローチは違えど、共鳴する部分も多く、励まされる気持ちになりました。

長崎ユース代表団からは、今村さんと私、川越がプレゼンを担当しました。私たちがどんな思いを持って活動しているのか、またこれまでの学びの中で得た気づきを、翌日のサイドイベントへの流れも意識しながら発表しました。私たちの想いが、一人でも多くの人の心に届いていれば嬉しいです。

他団体のプレゼンもそれぞれの視点が光っていました。医療や環境の観点から核問題に取り組む発表などは、私たちにとって新鮮で、視野がぐっと広がる貴重な機会になりました。

ディスカッションでは、発表者だけでなく参加者全員が意見を交わす活発な場となりました。私は、広島の高校生がプレゼンの中で語っていた「平和問題に関わる道は無数にあり、自分の情熱をどこかで必ず結びつけられる」という言葉に強く共感し、その思いをシェアしました。実は私自身、想像もしなかった形でこの活動に関わることになった経緯があります。

特に心に残ったのは、ディスカッション後に広島のユースの方が私の元を訪れ、「あの言葉が嬉しかった」と話しかけてくれたことです。お互いの参加理由や想いを短いながらも交換できたこの時間は、まさに対話から生まれる「つながり」の尊さを実感する瞬間でした。



◆ サイドイベント 「核抑止に頼らない安全保障」

その後、長崎コースからは濱田さんとバンダービーンさんが、広島県・長崎県主催のサイドイベント「核抑止に頼らない安全保障」に参加。ここでは、それぞれの感想を紹介します！

核抑止に頼らない安全保障の可能性について、国内外の専門家が多角的に議論されていて、朝鮮半島の信頼醸成や国際的枠組みの強化など、現実的な核軍縮への道が示されたので、自らの中でも新たな視点を養うきっかけとなる貴重な機会でした。（バンダービーン）

今回私が参加したサイドイベントでは、核抑止に頼らない安全保障について専門家からのお話がありました。私たちが水曜日に行うサイドイベントでも核抑止に対する代替案について議論をするので、それに向けて、専門的な新たな視点を得ることができました。私たちのサイドイベントにもつなげていけたらと思いました。（濱田）



◆ ドイツ・スイス大使との面会

2日目の締めくくりは、ドイツとスイス両国の大使との面会。私たちが事前に準備した質問に、真摯に答えていただきました。

ここでは、各国の安全保障や軍縮に対するスタンスの違いを実感することができ、ネットやニュースからだけでは得られないリアルな感覚を掴むことができました。特に印象的だったのは、両国の大使が共通して語っていた「日本は世界で唯一の被爆国として、核問題における非常に大きな影響力と責任を持っている」という言葉です。

日本、そして被爆地・長崎に住む若者として、この言葉をどう受け止め、どう行動に繋げていくのか。その問いを心に刻みながら、これからも活動をしていきたいと思います。



2日目は、時間に追われる中でも、たくさんの出会いや対話が生まれた濃密な一日でした。一つひとつの瞬間が、私たちの平和への歩みを確かに前に進めてくれています。明日はついに、長崎ユース代表団主催のサイドイベント。今日得た学びや刺激を、しっかりと次に繋げていきたいです。

ここまで読んでくださり、ありがとうございました！

また明日！

13th Nagasaki Youth Delegation attending the 2025 NPT PrepCom in NYC

ナガサキ・ユース代表团13期生がNPT再検討会議準備委員会での様子を投稿していきます！

recent posts

[NPT準備委参加 5日目、5月2日](#)

[NPT準備委参加4日目、5月1日](#)

[NPT準備委参加 3日目、4月30日](#)

[NPT準備委参加 2日目、4月29日](#)

[NPT準備委参加1日目、4月28日](#)

[about](#)



NPT準備委参加 3日目、4月30日

May 3, 2025

会議は3日目。本日のブログを担当します、濱田尚平と香月洸里です。よろしくお願いします。

本日は、私たちが主催のサイドイベントを行いました。

時間をかけて試行錯誤して作り上げたサイドイベント。みんな緊張していた様子でした。このイベントのタイトルは「New Strategy for Nuclear Disarmament and the Elimination of Nuclear Weapons」でした。このタイトルのもと、様々な国々から招いた若者とともに世界を取り巻く核兵器の問題についてグループディスカッションを行うというのがこのサイドイベントの主な内容です。

朝は9時50分ごろに集合し、参加者との打ち合わせの時間までステートメントを傍聴しました。11時から打ち合わせを開始する予定でしたが、ニューヨーク大学の皆様をはじめ、15分前から多くの参加者が集まってくださいました。打ち合わせでは参加者の皆様にネームタグをお渡しし、自己紹介をしました。参加者の方々が笑顔で接してくださったおかげで緊張がほぐれました。

打ち合わせの後、会場の準備に向かいました。当日は「会場内の机や椅子を動かしてはいけない」といった思わぬ制約もあり、戸惑う場面もありましたが、先生方にもご協力いただいたおかげで、なんとか時間通りに開始することができました。



まず初めに、ナガサキ・ユース代表团からプレゼンテーションをおよそ10分行いました。ここでは、80年前に長崎に投下された原子爆弾についてについて、被爆者の方々が今どのような気持ちをお持ちなのかを交えてお話をしました。加えて、今長崎で行われている平和活動や、世界の核問題の中でも核抑止とそれを支える軍事産業の両面のリスクについてプレゼンをしました。





そのうえで、核抑止と軍事産業の2つの面から代替案を考え、核抑止に頼らずとも安全保障を成立させる案について検討しました。核兵器に関する問題は複雑で、簡単に解決することはできません。しかし、今回のサイドイベントのような場を設けることで、核兵器廃絶という目標について改めて考えるきっかけになります。そして、こうした話し合いを今後も続けていくことで、具体的な解決策が見つかる日がきっと来ると考えています。私たちナガサキ・ユース代表団第13期メンバーとして、今後も核軍縮について考えることをやめず、一人ひとりが関わることで、自主的な活動を続けてまいりたいと考えております。





グループディスカッションでは、参加者が積極的に自分の考えや意見を出してくださり、とてもいい雰囲気で行進することができました。また他の方の意見に対して質問したり、課題を指摘したりする場面もあり、深い議論ができたのではないかと思います。イベント終了後、参加者からとても良いサイドイベントだったと声をかけていただき、達成感でいっぱいになりました。





本日はサイドイベントのほかにも、フランス大使とベルギー大使の方とお会いする機会を得ることができました。私たちにとっても専門的な話を聞くこと自体が非常に貴重な機会であり、今後の私たちの活動に活かせる部分がたくさんありました。お話して下さった大使の皆さんがお優しく、終始緊張しつつも、充実した時間を過ごすことができました。



ここまで読んでくださり、ありがとうございました。また明日！

13th Nagasaki Youth Delegation attending the 2025 NPT PrepCom in NYC

ナガサキ・ユース代表团13期生がNPT再検討会議準備委員会での様子を投稿していきます！

recent posts

[NPT準備委参加 5日目、5月2日](#)

[NPT準備委参加4日目、5月1日](#)

[NPT準備委参加 3日目、4月30日](#)

[NPT準備委参加 2日目、4月29日](#)

[NPT準備委参加1日目、4月28日](#)

[about](#)



NPT準備委参加4日目、5月1日

May 5, 2025

こんにちは。4日目のブログを担当いたします、13期生のバンダービーン新愛です！

私たちの国連での活動も折り返し地点を迎え、少しずつ国連での生活にも慣れてきました。それでも毎日が新鮮で刺激にあふれている、そんな私たちの4日目の様子をお届けいたします！

まず朝一番に向かったのは、日本政府国連代表部。梅津大使への表敬訪問を行いました。

私たちの活動についてご報告させていただくとともに、梅津大使のこれまでのご経歴や、日本政府の立場・視点などについて幅広く貴重なお話を伺うことができました。

「外交においては、とにかくリスペクトが大切。」というお言葉は、豊富なご経験に裏打ちされた重みがあり、私たちの心に深く響きました。今後、壁にぶつかったときに思い出すであろう、大きな指針となる言葉を頂きました。



国連日本政府代表部にて梅津大使との面会

次に参加したのは、Nuclear Age Peace Foundation主催のサイドイベント。

このイベントでは、ネバダ州での核実験によって被害を受けられたMary Dicksonさんのお話、そして放射線の研究という科学的視点から核問題に取り組むDr. Ivana Hughesのお話を拝聴しました。

戦時下における核兵器使用とは異なる側面から核の被害や問題点を見つめ直すことができ、大変学びの多い時間となりました。新たな視点が一気に開けた感覚がありました。



サイドイベントでの様子

お昼のあとは、ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）のMelissaさんの代理としてお越しいただいたFlorianさんと面会。

これまで各国の大使と面会を重ねてきましたが、NGOの立場から語られるお話はまた異なる角度を持っており、非常に新鮮かつ興味深いものでした。



ICANのFlorianさんとの面会

そして、この日最後の大きなイベント、中満国連事務次長との面会！

これまでも一般討論演説や外務省主催のレセプションにて中満事務次長のスピーチを拝聴しており、実際にお会いできる日を心待ちにしていた一同。

国連事務局ビルから見える美しいハドソン川の景色に胸を高鳴らせながら、その瞬間を待っている時間も印象深いものでした。



国連事務局ビルから見えるハドソン川の景色

実際にお目にかかる、テレビなどではうかがい知れなかったお人柄の温かさや真摯さが、表情やお言葉の一つひとつから伝わってきました。

中満事務次長のお言葉の数々は、私たちにとって大きな励ましとなり、今後の活動への確かな道しるべとなりました。



中満国連事務次長との面会

いよいよ国連での活動も終盤へと差し掛かってきました。

最終日もどうぞお楽しみに！

それでは、また明日！

13th Nagasaki Youth Delegation attending the 2025 NPT PrepCom in NYC

ナガサキ・ユース代表団13期生がNPT再検討会議準備委員会での様子を投稿していきます！

recent posts

[NPT準備委参加 5日目、5月2日](#)

[NPT準備委参加4日目、5月1日](#)

[NPT準備委参加 3日目、4月30日](#)

[NPT準備委参加 2日目、4月29日](#)

[NPT準備委参加1日目、4月28日](#)

[about](#)



NPT準備委参加 5日目、5月2日

May 5, 2025

皆さんこんにちは！2026第3回準備委員会5日目、5月2日分を担当するナガサキ・ユース代表団第13期生の富永桜子です。どうぞよろしくお願いいたします！

5月2日は私たちが参加する期間の最終日でしたが、予定が盛りだくさんのこの日は皆まだまだ気合い十分です。朝は8：30前にホテルを出発し、各国の国旗が連立する国連前で集合写真を撮りました。一人一人の表情を見ると、どこか達成感に満ち溢れているように思えます。



この日のスケジュールは、まず朝一から市川大使との面会からスタートし、立て続けにイギリス大使アメリカ代理大使との面会がありました。隙間時間にはクラスター討論を傍聴し、メンバー一同、一般討論演説とはまた少し違う雰囲気で行われるクラスター討論に興味津々でした。また、午後からは調先生がアレンジしてくださった、マンハッタン周辺研修ツアーに参加しました。さらに、夕方からはNuclear Age Peace Foundation主催の交流会にもお招きいただき、参加いたしました！そんな濃密すぎる5日目をNYからお届けします！

まず、9:30から軍縮会議日本政府代表部の特命全権大使である市川とみ子さんとお会いしました。外務省やIAEA、ウィーンでのご勤務を通してのお話は、一つ一つに深い学びがあり、メンバーそれぞれが尊敬のまなざしで必死にメモを取りながらお話を聴いていました。特に印象的であったお話は、「様々な国、立場の方とのコミュニケーションを通して、日本語ではどちらも『分かりました』で済む『Understand』と『Agree』はそれぞれ全く異なる」ということです。改めて、日本語と英語の語彙の違い、認識の違いを学びました。さらには、市川大使の外務省に入るまで海外渡航の経験がなかったというエピソードには、6人全員が驚き、様々な英語の勉強方法を教えていただきました。



次に、11:00からイギリス大使であるRileyさんとお会いしました。とても気さくな方で、私たちの質問に親身に寄り添ってくださいました。核保有国ならではの視点でお話を聴くことができ、非常に新鮮な経験となりました。やはりどの国も「trust-building」を重要視していることが分かり、各国の方向性が少しずつ分かり始めてきました。



さらに続いて、12：30からアメリカ臨時大使のAlisonさんとの面会でした。本来使用するはずであったEast Loungeが急遽使用できなくなるというハプニングもありましたが、Alisonさんや秘書の方々にご配慮いただき、普段は入ることのできないDelegation Loungeまでエスコートしていただきました。国連本部を構えるアメリカの大使にお会いできたことは非常に光栄でした。アメリカならではの考えや思いを直接聞くということは、またとない経験であり、原点復帰して核兵器の現状を再考する時間となりました。

また、Delegation Loungeにしかない、各国の国旗が連立するゾーンがあり、みんなで日本国旗を探して集合写真を撮りました。



そして午後からは、渡米前から調先生がアレンジしてくださったマンハッタン計画についての学習を中心とした研修ツアーに参加いたしました。ダウNTOWNまではアメリカに来てから初めての地下鉄に挑戦。樋川先生に先導していただきながら、ついに乗車。メンバー全員、緊張の面持ちでした。

無事、Brooklyn Bridge-City Hallに到着後、案内役を務めてくださるNY在住の田中さんと合流。ロウアー・マンハッタンを探索しながら、9.11の跡地や新しいワールドトレードセンターを訪れました。あの日から二十数年。当時のことを教えていただきながら、思いを馳せ、跡地をめぐるしました。グラウンド・ゼロを訪れた後は、ウォール街や自由の女神のフェリー乗り場周辺の街を散策しました。実際のアメリカの街を五感を駆使して歩きつつ、歴史を感じ、また少し違う角度から平和の在り方について考えるきっかけを得ることができました。



さらに最後には、Nuclear Age Peace Foundation主催の「YOUTH MIXER」というイベントに参加。Nuclear Age Peace Foundationの中には、私たち主催のサイドイベントに参加して下さった方も何人かいらっしゃり、さらに交流を深めるいい機会となりました。NY大学の学生が多く在籍し、男女関係なく私たちに積極的に話しかけてくださり、時間を忘れてしまうほど話が弾みました。日本の観光スポットを紹介したり、逆にNYのお土産について教えてもらったりなど、国を越えた交流ができて非常に有意義な時間を過ごせました。



5月2日、ついに最終日を終わりました。

4月28日からの5日間、それぞれの人生の中でも特に濃い5日間だったのではないのでしょうか。1日1日に新しい発見と学びがあり、トラブルに遭いながらもなんとか試行錯誤して乗り越えてきました。ナガサキ・ユース代表団第13期生に任命されてから約5か月。例年よりも準備期間が短い中、ぶつかり合いながらも、それぞれがこの5日間のために最善を尽くし、2026NPT再検討会議第3回準備委員会に挑みました。そして、最後の最後には、このNYという地で全員が笑顔で終わることができました。

最後に、樋川先生をはじめ、これまで温かいサポートをしてくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。ナガサキ・ユース代表団第13期生はまだまだ躍進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします！

5日間、最後までお付き合いくださり、ありがとうございました。

以上、NYからでした！